

# Cente Technical Information

発行番号	001-0059	Rev	第1版	発行日	2011/07/25
題名	UNICODE指定APIを使用した場合に拡張子の有/無を識別できない不具合について				
情報分類	技術情報				
適用製品	・Cente FileSystem Ver6.00				
影響API	fopen_uni, remove_uni, finfo_uni, move_uni, mkdir_uni, rmdir_uni, opendir_uni, chg_attr_uni, chg_tstamp_uni				
関連資料	なし				

## 【現象】

以下の条件を全て満たしたファイル/ディレクトリが存在する場合、

### <条件>

- ・他機器(Windows PC等)で作成したファイル/ディレクトリ
- ・名前の文字数が8文字以上、12文字以内
- ・名前の9文字目がドット(.)の場合

UNICODE指定APIを使用すると拡張子の有/無による違いを識別できず、誤ったファイル/ディレクトリを操作してしまう場合があります。

その結果、作成・参照・削除の処理を正常に行なえなくなります。

例えばファイル「12345678.ABC」が存在する場合にファイル「12345678ABC」を作成しようとする、同一のファイルと識別され、作成することができません。

## 【原因】

UNICODE指定APIではファイル/ディレクトリを検索する際、まずLong Entryの「Long File Name」と比較し、異なっていた場合は次にShort Entryの「Short File Name」と比較しますが、その際にドット(.)の有/無の確認が行なわれていませんでした。

## 【回避方法】

### ■運用での回避方法

以下の何れかの方法で運用により回避することが可能です。

①UNICODE指定APIを使用しないで下さい。

②UNICODE指定APIを使用した場合、

Cente FileSystemのUNICODE指定APIを使用した環境でのみ運用して下さい。  
UNICODE指定APIのみを使用した場合、Short Entryのname field(11char)には、ShortEntryの存在する位置(DirectoryEntryの先頭からのoffset)が格納されるため、ドットの有/無は関係なくなります。

③以下の条件を全て満たすファイル/ディレクトリを他機器(Windows PC等)で作成しないで下さい。

- ・名前の文字数が8文字以上、12文字以内
- ・名前の9文字目がドット(.)の場合

■プログラム修正による回避方法

fs\_dir\_uni.cの以下の関数に修正が必要です。

fs\_fchg\_uni()、fs\_find\_shortdir\_entry\_root\_uni()、fs\_find\_shortdir\_entry\_uni()

修正方法につきましては、弊社サポートまでお問い合わせ下さい。

以上